

地質標本館の仕事 ①

地質標本館は、1882年に設立された地質調査所（現 産業技術総合研究所（以下、産総研）地質調査総合センター）の、120年以上にわたる調査・研究にともなう貴重な研究試料（岩石・鉱物・化石などの標本）を責任をもって保管し、あわせて研究成果や研究試料を広く一般の方々にも公開することを目的として、茨城県つくば市にある筑波研究学園都市に設置されています（1980年に開館）。したがって、地質標本館は、地球科学に関する総合博物館であると同時に、地質調査所という研究所の研究成果の発信基地としての役目も担ってきました。現在は、産総研広報部に所属し、かつ地質調査総合センターの一員として研究成果および地球科学の普及を行っています。



茨城県つくば市にある産総研 地質調査総合センターの研究施設（①～⑧）。このうち、②が地質標本館の展示・管理棟、④・⑤に岩石などの標本の収蔵庫があります。①は研究本館で、この本館を中心に200名を超える研究者が地球科学の研究をしています。



地質標本館の正面玄関付近の様子（左）と展示室1階エントランスホールの様子（右）。地質標本館は韓国産のピンク色をした花こう岩を石材に利用しています。前庭には“生きている化石”のメタセコイアが植えられています。1階展示ホールには500万分の1の地球儀が設置されています。天井には日本列島の下に1926年から1997年までに起きた地震の震源（マグニチュード6以上）が球の大きさ（地震規模）と棒の長さ（深さ）で示されており、来館者はおよそ1,000kmの“地下”から見上げていることになります。

展示・解説など

地質標本館には、展示スペースとして1階エントランスホールと4つのテーマをもった常設の展示室などがあり、研究者による展示解説も行われています。

エントランスホールでは常設展示のほかに、春と夏の2回の特別展を開催しています。このほかの時期にもいろいろな特別展示（各地域の地質情報展や地質写真展など）を行っています。あわせて、日本列島は火山や地震などが多い島国ですので、このような災害に結びつく地質現象があった場合には、地質調査総合センターの研究者がいち早く現場に出向き調査を進め、その速報を緊急展示として一般の方々にも公開しています。

また、産総研の地域センターや他の博物館などの依頼に応じて標本や資料を貸し出したり、スタッフも一緒に出かけて行って、見学者の対応をする“移動地質標本館”も実施しています。



移動地質標本館での展示および解説の様子。産総研の各地域拠点にある地域センターや外部の博物館などの依頼に応じ、地質標本館から地元の地質情報（地質図など）に加え、岩石・鉱物・化石などの標本を持ち込み、スタッフ自らも出向いて地質情報の解説を行います。



春の特別展の様子。地質標本館では毎年4月の科学技術週間にあわせてエントランスホールで特別展を開催しています。地質調査総合センターの研究者と協力しながら企画から展示物の作製、展示パネルの設置までの実務をこなしていきます。企画展が始まると、来館者への解説も行います。



第1展示室～第3展示室では、地質調査総合センターの主な業務である各種地質図の作成、火山・地震に関する調査・研究、海域の地質の調査・研究、地下資源・エネルギー・環境に関する研究などにより明らかにされた最新の研究成果を展示・公開しています。



第4展示室では、1882年の地質調査所設立時からの長年の調査・研究で収集してきた標本や、他の研究機関との交換や寄贈により得た標本類のうち1,000点あまりを展示しています。これらの標本について、鑑定や正確な情報の提供、そして展示標本の維持・管理・展示の更新などを行っています。